

平成30年度 小平市立小平第四小学校 学校評価計画表

学校教育目標

○健康な子 ◎考える子 ○やさしい子 ○おこなう子

目指す学校像(ビジョン)

【目指す学校像】

みんなの笑顔が輝く学校

【目指す児童像】

■健康な子:生活リズムを整え、気持ちのよい挨拶・返事ができる子 ■考える子:課題解決に向けて、主体的・対話的に学ぶ子 ■やさしい子:自分の大切さとともに他の人の大切さを認める子 ■おこなう子:目標をもち、主体的に行動する子

【目指す教師像】

■健康な教師 明るく、元気で前向きな教師 ■考える教師 授業力、児童理解力、豊かな人間力を磨くために、絶えず自己研鑽に励む教師 ■やさしい教師 児童への愛情を十分に注ぎ、職務を全うできる教師 ■おこなう教師 同僚、保護者、地域と協働し、子どものために全力を発揮できる教師

前年度までの学校経営上の成果と課題

保護者や地域によるコミュニティ・スクールの認識、及び、小・中連携教育の取組についての理解が高まりつつあるが、義務教育9年間を見通した子どもの健全育成、学力向上を目指した教育活動を充実させることはできなかった。今後は、地域の教育力を生かした体験活動や奉仕活動を充実させ、健全育成及び学力向上にさらに努める。

		中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	努力目標(評価基準)	成果目標(評価基準)	
学力向上	児童自身が課題解決学習や身に付けた知識を活用した学習活動を展開し、学力の向上を図る。		教員の授業力の向上を図る。	全教員が、校外の研修会や研究発表会に年間1回以上参加し、学んできたことを校内の教員に報告するとともに、授業改善に生かす。	4 off-jtに1回以上参加した教員の割合が9割以上	4 保護者・地域アンケートで「児童の実態に合わせて工夫した授業をしている」と回答した割合が9割以上	
			児童が主体的、対話的で深い学びができるようになる。	全教員が、児童の主体的、対話的で深い学びが実現できる授業を目指した提案授業を一人年間1回以上公開する。	3 off-jtに1回以上参加した教員の割合が8割以上	3 保護者・地域アンケートで「児童の実態に合わせて工夫した授業をしている」と回答した割合が8割以上	
			児童が主体的な挨拶や気持ちの良い返事ができるようにする。また、時間を守ることの大切さを認識させ、基礎・基本の生活習慣を確立する。	代表委員会を中心とした挨拶プロジェクトを定期的に組織する。また、「四小スタンダード」について自己評価を学期末に行い主体的な取組を促す。	4 挨拶プロジェクトによる挨拶啓発活動を年間3回実施	4 保護者・地域アンケートで、「児童は挨拶ができています」と回答した割合が9割以上	
			いじめの未然防止、早期発見、早期対応を徹底する。	定期的ないじめ調査や高学年のSCによる全員面接を行い、実態を把握し指導に生かす。また、児童個々が活躍できる機会を多く設ける。	3 挨拶プロジェクトによる挨拶啓発活動を年間2回実施 2 挨拶プロジェクトによる挨拶啓発活動を年間1回実施 1 挨拶プロジェクトによる挨拶啓発活動の未実施	3 保護者・地域アンケートで、「児童は挨拶ができています」と回答した割合が8割以上 2 保護者・地域アンケートで、「児童は挨拶ができています」と回答した割合が7割以上 1 保護者・地域アンケートで、「児童は挨拶ができています」と回答した割合が7割未満	
健全育成	児童一人一人が思いやりの気持ちを持ち、互いに認め合える集団づくりを図る。		地域の教育力を学校教育や地域行事に生かし、児童の学力向上や健全育成の充実を図る。	学校経営協議会において、児童の健全育成、学力向上についてプロジェクト会議を行い、具体的方策を検討・実施する。	4 児童の健全育成、学習支援の具体的活動を年間3回以上実施	4 保護者・地域アンケートで、学力向上に向けた地域の取組の満足度が9割以上	
				各学年の地域連携教育活動(玉川上水学習・にじいろひろば・お仕事体験等)を充実させる。	児童の健全育成、学習支援の具体的活動を年間2回程度実施	3 児童の健全育成、学習支援の具体的活動を年間2回程度実施	3 保護者・地域アンケートで、学力向上に向けた地域の取組の満足度が8割以上
					児童の健全育成、学習支援の具体的活動の未実施	2 児童の健全育成、学習支援の具体的活動の未実施	2 保護者・地域アンケートで、学力向上に向けた地域の取組の満足度が7割以上
					各学年、年間3回以上の地域連携教育活動を実施	4 各学年、年間3回以上の地域連携教育活動を実施	4 児童の自己評価で、地域と連携した学習の満足度が9割以上
小中連携教育	四中校区の小・中学校の教員の日常的な交流を密にし、学習指導や生活指導の連携教育を確立させる。	コミュニティ・スクールの基盤とした小・中連携を強化し、義務教育9年間での学びを充実させる。	小・中学校の教員同士の交流及び児童・生徒との直接交流の機会を設定し、相互理解を図る。	4 協議会や授業参観等、中学校教員との交流を年間5回以上実施した教員の割合が9割以上	4 保護者・地域アンケートで、小・中連携の取組の満足度が9割以上		
				第四中学校生徒と児童との直接交流の機会を設け、中学校生活への期待感を高めさせる。	協議会や授業参観等、中学校教員との交流を年間5回以上実施した教員の割合が7割以上	3 協議会や授業参観等、中学校教員との交流を年間5回以上実施した教員の割合が7割以上	3 保護者・地域アンケートで、小・中連携の取組の満足度が8割以上
					協議会や授業参観等、中学校教員との交流を年間5回以上実施した教員の割合が6割以上	2 協議会や授業参観等、中学校教員との交流を年間5回以上実施した教員の割合が6割以上	2 保護者・地域アンケートで、小・中連携の取組の満足度が7割以上
					協議会や授業参観等、中学校教員との交流を年間5回以上実施した教員の割合が6割未満	1 協議会や授業参観等、中学校教員との交流を年間5回以上実施した教員の割合が6割未満	1 保護者・地域アンケートで、小・中連携の取組の満足度が7割未満
体力向上	児童の体力・運動能力の向上を図るとともに、健康や安全への意識を高める。	児童が主体的に運動に取り組み、体を動かす心地よさを感じられるようにする。	月曜日の朝遊びや、休み時間における外遊びの励行、体力アップチャレンジ月間(縄跳び、持久走)の取組を充実させる。	4 体力向上に向けた取組の実施率80%以上の教員の割合が9割以上	4 児童の自己評価で、「めあて達成に向けて努力した」と回答した割合が9割以上		
				学級指導、保健の授業で「生活シャキットカード」を活用するなど、自己の日常生活を振り返る習慣を身に付けさせる。	体力向上に向けた取組の実施率80%以上の教員の割合が8割以上	3 体力向上に向けた取組の実施率80%以上の教員の割合が8割以上	3 児童の自己評価で、「めあて達成に向けて努力した」と回答した割合が8割以上
					体力向上に向けた取組の実施率80%以上の教員の割合が7割以上	2 体力向上に向けた取組の実施率80%以上の教員の割合が7割以上	2 児童の自己評価で、「めあて達成に向けて努力した」と回答した割合が7割以上
					体力向上に向けた取組の実施率80%以上の教員の割合が7割以下	1 体力向上に向けた取組の実施率80%以上の教員の割合が7割以下	1 児童の自己評価で、「めあて達成に向けて努力した」と回答した割合が7割未満
学力向上	児童自身が課題解決学習や身に付けた知識を活用した学習活動を展開し、学力の向上を図る。		基本的な生活習慣に係る指導を年間6回以上実施している教員の割合が9割以上	4 基本的な生活習慣に係る指導を年間6回以上実施している教員の割合が9割以上	4 児童の自己評価で、「心身ともに健康である」と回答した割合が9割以上		
			基本的な生活習慣に係る指導を年間6回以上実施している教員の割合が8割以上	3 基本的な生活習慣に係る指導を年間6回以上実施している教員の割合が8割以上	3 児童の自己評価で、「心身ともに健康である」と回答した割合が8割以上		
			基本的な生活習慣に係る指導を年間6回以上実施している教員の割合が7割以上	2 基本的な生活習慣に係る指導を年間6回以上実施している教員の割合が7割以上	2 児童の自己評価で、「心身ともに健康である」と回答した割合が7割以上		
			基本的な生活習慣に係る指導を年間6回以上実施している教員の割合が7割未満	1 基本的な生活習慣に係る指導を年間6回以上実施している教員の割合が7割未満	1 児童の自己評価で、「心身ともに健康である」と回答した割合が7割未満		